

# 生成 AI 特集：海外企業の事例分析

## Adept (米国・PC 操作自動化エージェント AI)

2022 年に設立された Adept は、自然言語の指示を PC 操作に変換し、複数アプリケーション間の業務フローを自動化するエージェント型 AI<sup>#1</sup>を開発している。2024 年 6 月に Amazon が Adept の共同創業者らを採用し、同時に Adept の技術をライセンス契約により AGI<sup>#2</sup>開発に利用することを発表した。創業者や一部チームは Amazon に移籍しつつも、Adept の技術開発は継続されており、エージェント AI 分野におけるリーダー的地位を固めつつある。

### 1. Adept AI の技術概要と特徴

Adept の中核技術は、自然言語の指示を PC 操作に変換して実行する ACT モデル、及びその推論基盤となるマルチモーダル大規模言語モデル Fuyu である。

#### ACT (Action Transformer)

- ACT-1：ACT シリーズの初代モデルであり、自然言語指示を受けて、ブラウザを含む PC 上でのクリックや入力、スクロールなどの操作を自動化する能力を備えている。
- ACT-2：大規模言語モデル Fuyu を活用し、複数アプリ間の連携、推論精度の向上、非定型業務対応の柔軟性強化を実現した後継モデルである。

#### Fuyu (および Fuyu-Heavy)

- Fuyu-8B：Adept がオープンソース公開したマルチモーダルモデルであり、あらゆる画像解像度の理解や UI 認識、チャートや図表への対応が可能な、デジタルエージェント向け設計のトランスフォーマーである。
- Fuyu-Heavy：Fuyu アーキテクチャをスケールアップしたモデルであり、UI 理解やマルチモーダル推論に秀でている。

#### 技術的特徴

- **マルチモーダル対応**  
テキスト、画面 (GUI)、構造化データなどを統合して処理し、複雑な業務シナリオにも対応する (Fuyu/Fuyu-Heavy による対応)。
- **マルチモデル構成**  
OpenAI や Anthropic の LLM と Fuyu などの自社モデルを組み合わせ、タスクに応じた最適なモデルを動的に選択することが可能である。
- **RPA 統合**

<sup>#1</sup> エージェント型 AI 市場は急成長を遂げており、2025 年時点の市場規模は約 70~75 億ドルと推定され、年平均成長率 40~45% で 2030 年には約 400 億ドル超に達すると予測されている。

(出典：MarketsandMarkets)

<sup>#2</sup> AGI (Artificial General Intelligence：汎用人工知能) は、人間のように幅広い分野にわたって学習・推論・判断・行動を行うことができる AI を指す。Adept が Amazon に提供する技術は、将来的にこの AGI の基盤となる可能性を持つ。

従来のルールベース RPA (Robotic Process Automation) では非定型業務や UI 依存タスクを対象とするのが難しかった。Adept は自然言語理解を組み合わせることで、API 非公開のアプリケーションでも GUI 操作を通じた自動化が可能であり、業務フローの変更や例外処理にも対応できる。

Adept はこれらの技術により、業務シナリオ全体を自律的に実行できる業務実行型エージェントとしての性格を強化している。

---

## 2. 業務プロセスへの構造的影響

Adept のエージェント AI は、企業の業務プロセスに次のような変革をもたらす可能性がある。

- **業務フローの分断解消**  
テキスト、画面情報、構造化データを統合的に処理することで、従来はシステム間連携が困難だった業務フローを一元的に自動化し、アプリケーションをまたぐエンドツーエンドの処理を実現する。これにより、CRM、ERP、会計システムなど異なるシステムを横断する業務フローが統合され、エンドツーエンドでの自動処理が可能になる。
- **非定型業務の自動化**  
タスクの種類や複雑さに応じて最適なモデルを選択し、自然言語理解と推論を組み合わせることで、例外処理や変動要素を含む業務でも柔軟な対応が可能となる。定型処理に限定されてきた従来 RPA の制約を超え、非定型業務を自律的に完結させる基盤を形成する。
- **セルフサービス化と業務自律化**  
定型業務は AI エージェントに任せる仕組みが定着し、業務プロセスは自律化に向かう。既存の RPA が担ってきた定型業務自動化の範囲を拡張し、エンドユーザが自然言語で直接業務依頼を行える環境を整備する。これにより、IT 部門を介さずに業務が即時完結し、定型業務は AI が自律的に処理する体制が可能になる。

これらの変化は、部門ごとにサイロ化されていた業務を横断的に統合し、企業全体の業務設計を再構築する構造的インパクトを持つ。Adept の技術は単なる自動化ツールではなく、業務プロセス変革の担い手として位置づけることができる。

---

## 3. 導入・活用事例

Adept は現時点では導入実績や具体的な企業名を公表していない。以下に同社が公式ブログ（情報源参照）で提示している利用例を示す。

- **医療**  
診断書から電子カルテへの入力を自動化する。文書理解と UI 操作を組み合わせることで、医療事務作業を効率化し、入力ミスを減少させる。

- **金融・バックオフィス**

Google Sheets に記録された顧客情報をもとに、Stripe<sup>#3</sup> で顧客作成と請求書発行を自動化する。表計算ソフトと決済システムの橋渡しを行い、決済事務処理の迅速化を実現する。

- **営業・CRM**

Gmail の受信メールを解析し、Salesforce のリード情報を自動で更新する。営業担当者が行っていた手作業のデータ入力を削減し、CRM の鮮度を維持する。

- **マーケティング**

イベント来場者リストから HubSpot<sup>#4</sup> や Salesforce にリード情報を登録する。イベント運営から CRM 連携までを自動化し、マーケティング活動の一貫性を高める。

- **コンプライアンス・与信管理**

契約書から必要情報を抽出し、州政府データベースでライセンスを照会する。公的データとの突合を自動化することで、監査や与信業務における人為的負担を軽減する。

これらは同社の技術がどの業種でどのように応用可能かを具体的に示しており、将来の導入シナリオを考えるうえで有益な示唆となりうる。

---

#### 4. まとめと展望

Adept は、自然言語指示を PC 操作に変換する ACT モデルと、マルチモーダル LLM である Fuyu を基盤として、従来の生成 AI を「業務実行型エージェント」へと進化させた。これにより、システム間で分断されていた業務フローを統合し、非定型業務や例外処理にも対応できる仕組みを実現している。

公式に提示されている利用例はデモ段階にとどまるものの、医療・金融・営業・マーケティング・コンプライアンスといった主要業務に直結する適用可能性が示されており、業種横断的な普及の基盤を備えていることが確認できる。

また、Amazon との戦略的提携により、Adept の技術は大規模商用展開の可能性を大きく広げた。今後は RPA や ERP との統合、さらに企業内データ基盤との連携が進むことで、エージェント型 AI が企業活動に深く根付くことが予想される。

エージェント型 AI 市場は今後も急成長が見込まれており、Adept の技術は単なる業務効率化の枠を超え、**業務プロセスそのものの再設計を促す中核技術**として位置づけられる。AI を活用した自律型業務システムへの移行が現実味を帯びつつある。

---

<sup>#3</sup> フィンテック企業で、オンライン決済や請求書発行、決済処理インフラをクラウド型で提供するサービスプロバイダ

<sup>#4</sup> 米国発のマーケティングオートメーション企業で、CRM（顧客関係管理）やマーケティング支援ツールをクラウド型で提供するサービスプロバイダ

---

※掲載されている企業名・製品名・ロゴは、各社の商標または登録商標です。本記事は公開情報をもとに百一コンサルが独自に構成・解釈したものであり、企業の公式見解とは異なる場合があります。

---

## 情報源

[Agent AI 市場予測](#) (MarketsandMarkets ; 2025 年 6 月)

[Adept AI と Amazon の契約](#) (Reuters 記事 ; 2024 年 6 月)

[ACT-1](#) (Adept AI 公式ブログ ; 2022 年 9 月)

[Fuyu-8B](#) (Adept AI 公式ブログ ; 2023 年 10 月)

[Adept Experiments](#) (Adept AI 公式ブログ ; 2023 年 11 月)

[Fuyu-Heavy](#) (Adept AI 公式ブログ ; 2024 年 1 月)